

# みんなで助け合い 円満のポイント！～



いま小山市でイクメンとして名高いのがコウノトリのひかる(4歳)息子のわたる、娘ゆうの面倒をよく見えています

## ③男性の育児休業取得率を上げましょう **職場も協力！**

◆取得率は他先進国と比べても低い7.48% (令和元年度)、その原因は？

- \* 会社で育児休業制度が整っていない
- \* 育児休業制度を取得しづらい雰囲気がある
- \* 時間外労働が多い
- \* 会社に交代要員の余裕がない

などの理由があるようです。男性の家事・育児時間を増やすためには、残業を少なくする、休暇を取りやすくするなど企業の後押しが必要です。

くわしくは  
7・8ページ下部で



### ◆ある企業の取り組み

それは「育ボスブートキャンプ」と呼ばれる、管理職社員に仕事と子育ての両立を体験してもらうプログラムによって、意識改革を行う取り組みです。

①講座②4日間の育児体験③発信の3パートで構成。参加者は体験によって得た多様性への気づきや今後のアクションプランを発信します。

#### ※4日間の育児体験のメニュー例

17時ちょうどに退社→保育園のお迎え→「受入家庭(部下の自宅)」へ！  
部下の息子(6歳)と娘(3歳)と遊び(プロレスごっこ等結構ハードな内容)、  
洗濯、食事の支度、入浴、着替え、食事、寝かしつけまで！(21時半終了)  
これを4日間繰り返します…。

体験の結果、「終了時間間際には焦るし、子どもは思うようにいうことを聞いてくれないし、と部下の苦勞が分かり、人に対して想像力がついた、この体験で感じたことがマネジメントに生かせる」などと好評だそうです。



## 人類の子育ては、みんなで協力するものでした

人間は他の動物に比べると、とても弱い動物です。ほとんどの動物は生まれてから数日で歩き出し、大人になるのも早いです。人間は歩けるようになるまで1年位かかりますし、成人するまで20年もかかります。だから子育てがとても大変です。母親だけで育てるなんてとても無理なのです。

そこで、コミュニティ全体で子育てするようになったのです。

人類発祥の地アフリカには、「子どもを育てるには村がいる」ということわざが残っています。

(文化人類学者・辻信一氏 講演「ゆっくり小学校」の話から)